

株式会社 産業経済新聞社 サンケイスポーツ

社会学部経営社会
2年 竹中 真理絵

1. 実習企業（団体）の概要

産経新聞社は、フジサンケイグループの中心となる1社で、子会社22社と関連9社からなる産経新聞グループを構成している。サンケイスポーツは1955年2月に大阪、1963年2月に東京で創刊された。その産経新聞社が発行するスポーツ新聞、通称サンスポは時代の変化を敏感に捉え、ますます多様化する顧客のニーズに柔軟に対応している。

- ・創刊 1933年6月20日(産経新聞の前身である「日本工業新聞」を大阪で創刊)
- ・設立 1955年2月15日
- ・資本金 31億7219万8500円 ・従業員数 1863人(2016年3月31日現在)
- ・所在地 東京本社 東京都千代田区大手町1-7-2
大阪本社 大阪市浪速区湊町2-1-57
- ・代表取締役会長 太田 英昭 ・代表取締役社長 熊坂 隆光

2. 実習内容

1日目は、サンケイスポーツ本社にて、サンケイスポーツ、産経新聞社の概要、また編集局各部署(運動部、文化報道部、レース本部、整理部、サンスポコム)の役割や業務内容の説明を受けた。その後、編集会議から出稿、レイアウトなど新聞づくりの流れを見学した。2日目は、本社にて営業局各部署(販売部、広告部、出版営業部、編集センター)の役割や業務内容の説明を受けた。3日目からは本社を出て、日産スタジアムにてJリーグの取材の仕方、原稿執筆の仕方などを学んだ。4日目は、東京ドームにて、プロ野球の取材の仕方、原稿執筆の仕方を学んだ。

3. 実習の成果

記者という仕事は、選手と信頼関係を築いていき、いろいろな話を選手から引き出すことが重要なので、決まったビジネスマナーがあるわけではないが、それぞれのやり方で、選手と上手くコミュニケーションをとっていかなくてはいけない。他紙の記者ともたくさん顔を合わせ、情報交換をするため、そこでもまたコミュニケーション能力が必要になるということを知った。また、同じサンケイスポーツという会社の中でも、大きく二つの局に分かれていて、その中でもたくさんの部があり、一つのスポーツ新聞を作るのに、これだけ多くの人が様々な仕事をしているということがよく分かった。スポーツ新聞社と聞くと、一番に浮かぶのは記者の仕事ばかりだったが、より多くの人に新聞を手にとってもらうために様々な役割があり、どの仕事も大変だが、やりがいのあるすばらしいものばかりだなと思った。

3. 実習の感想

今回、サンケイスポーツのインターンシップに行かせていただき、初めて知ることが

たくさんあった。まず、スポーツ新聞社というと、記者の仕事が一番に浮かんでしまうが、より多くの人に新聞を手にとってもらえるように宣伝であったり、大事な収入源である、広告の載せ方だったり、スポーツ新聞社主催のスポーツ大会の運営であったりと様々な仕事、役割があるということを細かく教えていただきとてもためになった。

また、新聞社、特に編集局は、常に時間との戦いであるということをととても感じた。というのも、インターンシップ1日目、東京に台風が来ていた。台風などの悪天候の日は、配達に時間がかかるため、レイアウト、原稿の締め切りが、通常よりも早くなる。なので、とてもバタバタしているときのインターンシップだったので、本当に申し訳ない気持ちになったが、あまり見ることでできないイレギュラー

な動きを見ることができ、とても貴重な経験になった。また、とても驚いたことがあった。日産スタジアム、東京ドームで記者の方の動きを見学させていただいているとき、試合中でも原稿を書くという話は聞いていたのであまり驚かなかったが、試合後、関係者専用の廊下で、そこを通る選手を待っているときにも、時間が惜しいためか廊下で原稿を書いている姿を拝見した。その姿にはとても驚き、感心してしまった。私たちのもとに新聞が届くまでに、これだけの大変な作業をこなさなくてはならないとても大変な仕事だなと心の底から思った。4日間、憧れの現場で働く方たちを近くで拝見でき、本当に貴重な経験になった。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	8月22日(月)	社内研修 編集局
2日目	8月23日(火)	社内研修 営業局
3日目	8月27日(土)	日産スタジアムにてJリーグの試合観戦、取材現場の見学
4日目	8月30日(火)	東京ドームにてプロ野球の試合観戦、取材現場の見学